

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念を作り、事務所に掲示している。	○	常に、出来ているか振り返りをしていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	取り組んでいる。	○	法人として、新人研修会で周知している。機会あるごとに振り返りをしていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	年4回発行の機関紙により地域への浸透を図っている。	○	今後もお便り、広報等で、理解していただける工夫を継続していきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物等で、挨拶をしたり、言葉を交わしていく努力をしている。	○	散歩、買い物、学校との触れ合い活動、自治会行事等積極的に参加し、施設の存在をアピールしていく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する団地の夏祭りに呼んでいただいて参加したり、地域の中学の運動会・演奏会に毎年呼んでいただく等、地域の行事に積極的に参加している。また、地元の中学の体験学習において、学ぶ場を提供している。	○	今後も交流を継続していき、また、活動の範囲も広がってきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>併設のデイサービス、ショートステイ、ヘルパー、ケアマネージャーと連携し、相談している。</p>	○	<p>今後、ご利用者様や、介護者の支援をするための教室の開催など検討している。</p>
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> <p>外部からの評価には前向きに取り組み、全面協力している。</p>	○	<p>今後も協力し、前向きに改善に役立てたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> <p>毎回、活発に意見を頂き、運営に生かしている。</p>	○	<p>地域の情報収集や、触れ合いの機会を作れるよう今後も、窓口の一つになって頂けるようお願いをしていく。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>施設長が地域のケアマネージャー会議の運営委員でもあり、市町村との連携ができています。また、電話での相談や、運営推進会議を通じて情報交換などを行っている。</p>	○	<p>施設の中を見て頂ける機会を作りたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>研修会への積極的な参加を促している。また、エリアの学習委員を通じ、各種研修会の案内を行い、学ぶ機会を提供している。</p>	○	<p>可児エリアとして、2ヶ月に1度、自主勉強会を開催しており、その中で、学んでいけるよう取り組みたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> <p>法人研修会や可児エリア研修会において、取り組んでいる。</p>	○	<p>職員が学ぶ機会を作りたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	かなりの時間を割き、丁寧にお話しし、疑問点も挙げていただき、お答えしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部から来る、安心介護パートナー、権利を守る委員会等で、話しを聞いて頂いている。また、個別に職員がご利用者様の思いを傾聴している。	○  今後も個別に把握していく努力をする。
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ご家族にお手紙を出し、ご状態をお話している。また、体調等の心配があるときは、NSと相談し、ご家族にお電話でお話している。金銭に関しては、家族会で、ご家族に確認して頂いている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、面会時、コミュニケーションを図り、ご家族が話しやすい環境が作れるよう努力している。また、法人内にサービスセンターを設け、法人として苦情対応を行っている。	○  家族が施設に来て頂ける機会を少しでも増やしていくため、家族も参加できる行事など、計画していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で、皆の意見を聞き、運営に反映させている。	○  あまり自分の意見を言わない職員さんには、個別に出来るだけ意見を聞くようにしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	全体行事の時など、職員確保に努めている。	○  今後も柔軟に対応していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	出来る限りなじみの関係を継続したいと思っている。ご利用者様への影響を最小限に防ぐため、細かい情報の共有やケアプランの充実を図り、個別ケアの統一化を図り、対応している。	○	管理者と相談しながら、考えていきたい。
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に、新人、中堅、管理者、リーダー研修の体系化ができています。他に、ナーシング可児独自の研修の機会を2ヶ月に1度計画している。また、実践者研修など公的な各種研修会をはじめとして、地域の研修会へも積極的に参加している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の6つのグループホームと職員交換研修の機会を定期的に持っている。	○	他業者との交流については、市の担当者に相談している。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	昼の休憩時間を職場から離れて、30分は確保し、気分転換を図っている。また、他部署と合同で、委員会を開催しており、人事交流等行い、ストレスの軽減に努めている。	○	年1～2回の親睦会を行っているが、機会があればその回数を増やしていくなど検討したい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	学ぶことの大切さを機会あるごとに説き、定期的な学習会の開催など、学べる環境を提供している。また、努力を適正に把握し、実績ある時には給与に反映させている。	○	今後も向上心を持ち続けていけるよう学べる環境作りや、学んだ事の発表の場などを提供していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回面接の時間はあまり長くなりすぎないように気を配っているし、細かな情報をつかむ必要があり、聞き取りは多岐に渡る。また、認知症の方はきちんと自分の事を語れる方は少ないので、十分とはいえない。	○	センター方式を取り入れながら、アセスメントの充実を図りたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期、ケアマネージャー含む関係機関からの情報を出来るだけ収集し、把握している。	○	今後も、ご家族とのコミュニケーションを図っていく。
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要があれば、併設している介護相談センターと相談し、対応している。	○	継続して、関係機関と連携していく。
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所に当たっては、認知症の方なりに、お話して納得して頂き、入所して頂けるようお話している。また、入所に際して、体験という形をとり、ご本人やご家族に入所を考えて頂ける時間を作っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々、ご利用者様から学ばせて頂いているし、そうありたいと思って仕事している。	○	日々、振り返り努力していきたいし、職員とも意思統一していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを受け止めていけるようコミュニケーションをとる努力をしている。	○	ご利用者、ご家族、施設3者が、良い関係を作り、ご利用者様を支えていけるよう努力していく。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	努力している。	○	引き続き連絡を密にしていく。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご面会のご家族から制限がない限り、自由にして頂いている。また、入所時、ご自宅で使っておられたなじみの家具や、大切な物を持ってきて頂けるようお声を掛けている。また、初回は使い慣れた箸、湯のみ、茶碗を持ってきて頂き、使っている。	○	引き続きお声をかけていく。
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者様がユニットの中で孤立しないよう、他のご利用者様との関係が上手くいくよう日々、注意して見守っている。	○	引き続き見守っていく。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	グループホームの利用が終わった場合でも、ご家族のご意志を確認し、継続して、法人にて次のサービスへの橋渡しをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	十分受け止め、介護計画に反映させるよう努力している。	○	アセスメントを十分にしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、ご家族やご本人やケアマネージャーなど関係者から、出来るだけお話を聞き、入所後もご本人から、できるだけお聞きするよう努めている。	○	アセスメントを十分にしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員全体で努力している。	○	今後も日々努力していく。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	その都度、話し合い作成している。	○	今後も情報収集と、話し合いを密にし、適切なプランをたてていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	作成している。	○	細かな見直しを今後もしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実行している。	○	その都度、職員への指導をしていきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人の他のサービス、または、法人外のサービスも含めて、他の機関に相談を掛けている。また、医療との連携もしている。	○	今後も管理者と相談していきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	併設の事業所を含め、積極的にボランティアを受け入れ交流を図っている。	○	6月定例学習会にて、地元消防署から講師を招き、救急隊との連携について学ぶ予定である。日頃から、関係者とのコミュニケーションを確立していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じてしている。	○	今後も相談を掛けていく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センター職員も委員として参加しているので、必要時には協働できる。環境は整っているが、今のところ事例がない。	○	今後、必要に応じて対応していきたい。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	作っている。必要に応じて、職員も受診に付き添い、先生にご状況を説明し、適切な医療を受けられるよう支援している。	○	ご家族にご状態を説明し、受診をお願いしても、ご家族が昔からそうだからと受診を拒んでしまわれることがある。今後も働きかけをしていきたい。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医との相談を密にしており、医療ソーシャルワーカーとの連携も含めて、体制ができています。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤の看護師2名、パート看護師1名が配置されており、日々、利用者様のご状態に気をつけている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	必要な情報はいつでも提示している。また、事前にご家族にも、文書で同意を得ている。また、入院早期より、医療ソーシャルワーカーとの連絡を密にするなど、連携体制が整っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	個別な事例について会議等で話しあっている。また、ご家族、医療の意見もお聞きして対応している。終末期については基本的に法人は対応していないが事例はあり、全員で取り組んだ。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	会議等で話をしている。終末期は基本的に対応しないことになっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入所時、そう努めている。	○	今後も細かな配慮をしていく。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	学習会や日頃のOJTを含め、職員間で、徹底している。	○	今後も細かな配慮をしていく。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	学習会や日頃のOJTを含め、職員間で、徹底している。	○	ご利用者様が選択できるような言葉かけや状況設定をしていく。
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別援助計画を充実させ、個別ケアに心掛けている。	○	今後も努力していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ある程度できている。ご家族がご本人のなじみのお店に連れて行って下さる方と、施設で対応して欲しいといわれる方と分れているが、個別に近く理美容に行っていただく方もおられる。身だしなみについては、朝、ご利用者と相談して決めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	実行している。献立は職員が利用者様の食べたいものを聞きながら立てている。	○	グループホームとしての基本的なあり方なので、日々気に掛けていく。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ等工夫している。お酒、タバコについては、医療的な制限のない限り、楽しんでいただけるよう支援している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄パターンにあった時間によるトイレ誘導を心掛けている。	○	適切なトイレ誘導が出来るよう、ご利用者様の把握に努力していきたい。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個人の心身状況を把握して、個人にあったタイミングで声かけをしている。ただし、夜間などは職員体制上制限がある。	○	出来る範囲で努力していく。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	季節に合った寝具の選択、衛生面に気を配っている。また、必要な方は個別援助計画に位置づけ、支援している。	○	引き続き、細かな対応をしていく。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来る限り、ホーム内での役割を見つけ、個別援助計画に位置づけ支援している。日常生活上の役割や、花や畑作りなど趣味的なものや、買い物、散歩といった外出や行事など取り入れている。	○	生きがいを持てるような支援を目指していく。


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所に際して、お小遣いを預り、その都度、対応している。また、ご家族のご了承があれば、常に現金を持っていただいてもいいことにしている。	○	個人的な買い物の機会をもっと作っていきたい。
61 ○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物等、機会を作っている。	○	機会を増やしていきたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	支援している。誕生会・外出等にも、ご家族の都合が合えば、参加を呼びかけている。	○	機会を増やしていきたい。
63 ○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族とご相談し、時間を決めて対応している方もいる。	○	必要に応じて、ご家族にお願いしていきたい。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも来て頂けるようお声を掛けている。毎日来ておられる家族の方もいる。	○	積極的にお声を掛けていく。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>			
65 ○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人研修会や、エリア学習会等で徹底しており、積極的に取り組んでいる。	○	今後も継続して取り組んでいく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>機会あるごとに開錠について話しているが、十分に徹底しているとは言えない。また、夜間についてはご利用者様がご自分で施錠される場合もある。</p> <p>○</p>	<p>今後も開錠の必要性を話していく。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>絶えず心掛けている。</p>	
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>ご利用者様の個別に大切にされている物については、危険だからといって、全て片付けているわけではない。個別に対応している。</p>	
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>法人としてリスクマネジメントマニュアルが作成されており、また、月1回エリア全体の中で事故対策会議を実施している。危険予知能力を高める為の取り組みをエリアの事故対策委員会にて取り組んでいる。</p> <p>○</p>	<p>今後も意識付けを高めていけるようエリアの事故対策委員会と協力しながら、学んでいく。</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>毎年、救急法の講習を行っている。また、可児独自の研修でも取り組んでいる。</p> <p>○</p>	<p>いざという時、対応できるよう繰り返し学習していく。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>施設全体での訓練はしているが、地域を巻き込んだ取り組みについては課題である。</p> <p>○</p>	<p>6月に地元消防署の救急隊との連携で、学習会を開催するが、今後も継続して連携に努めていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p> <p>常に連絡を取り合い、ご本人に一番良い方法を模索している。</p>	○	<p>今後もしばしば細かい対応をしていく。</p>
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p> <p>看護師を3人配置しており、つねに意識して取り組んでいる。</p>	○	<p>今後も観察を怠らない。</p>
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p> <p>薬については、全てお預かりし、いつ服薬するお薬であるのか、職員全てがわかるよう工夫している。また薬が変わった時にはケース記録に記載すると共に、申し送りで話し、ノートにも記載している。</p>	○	<p>今後も申し送りの徹底をしていく。</p>
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p> <p>排便の困難な方には、身体面、食事の工夫と共に、医療にも相談を掛けている。排泄シートにも記載している。</p>	○	<p>今後もしばしば細かい対応をしていく。</p>
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p> <p>毎食後、口腔ケアの声かけと見守り、介助をしている。</p>	○	<p>自立の方で、口腔ケアを嫌がる方への言葉かけを工夫していく。</p>
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p> <p>一人一人工夫している。また、併設の栄養士への相談体制もできており、必要時にはアドバイスをしてもらっている。</p>	○	<p>今後もしばしば細かい対応をしていく。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人全体で取り組み、マニュアルを作成している。又適時学習会を開催し、周知徹底をしている。	○	日々、気をつけている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日手洗いと消毒の徹底をしている。また、適時、併設の栄養士が把握、指導をしている。	○	引き続き行っていく。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	併設施設の奥にあり、入り口が解りにくいため、看板を設けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭やベランダを利用して、季節の花を育てたり、それぞれのユニットで工夫している。	○	楽しい空間になるよう工夫していく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では席等で、ご利用者様同士が円滑にコミュニケーションを取れる様、配慮している。また、独りになれる時間も個々に尊重している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や大切なものを持ってきて頂けるよう、ご家族にお声を掛けている。	○	引き続きお声を掛けていく。
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	その都度、行っている。	○	今後もきめ細かな対応をしていく。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る範囲の工夫はしている。また、構造上のことについては、施設の管理者に相談を掛けている。	○	ご利用者の状況に応じて違って来るので、今後もできる範囲で環境を整えていく。
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その都度、個別に対応している。	○	個別に傾聴し、今後もきめ細かな対応をしていく。
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	2階に畑を作ったり、花壇等作り、工夫している。ご利用者のいこいの場になっている。	○	2階部分についてはできている。1階部分についての工夫をしていく必要がある。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

基本的に個別対応であり、一人一人の方の思いを組む努力を職員全員で取り組んでいる。ご状态的に重度化され、グループホーム対象の方ではない方も増えてきているが、職員は、その方のご状態を見ながら、食事等工夫して、生活して頂いている。真面目な職員が多く、決められたこと、言われた事をきちんとこなしていこうとする姿勢が見られる。グループホームの仕事は、ご利用者様との生活そのものであり、多岐にわたり、確かに忙しい毎日であるが、私自身は、ご利用者様と向き合う中で、その方を、「認知症があり、いろいろな事ができない人」と捉えるのではなく、この方は「これができる。これもできるかもしれない」という視点で、毎日仕事をして欲しいと職員さんに思っている。介護にあたる人間がポジティブに物事を捉えていかないと、ご利用者様のエンパワメントは引き出していけない。一日一つでもいい。自分の前のご利用者様に何かできることを引き出し、笑顔を引き出していけたら、それがご利用者様の生きる意欲に繋がっていくと思っている。